

第2回兵庫・大阪連携会議 議事録

日時：令和4年9月8日(木)
15:40～16:45
場所：人と防災未来センター
西館1階「ガイダンスルーム1」

1 開 会

<事務局>

- ・出席者名簿により紹介

2 開催県挨拶

<齋藤兵庫県知事>

- ・本日は吉村知事をはじめ大阪府の皆様へ、ここ兵庫・神戸にお越しいただき第2回、本年度に入って初めての兵庫・大阪連携会議を開催できることを大変うれしく思います。
- ・先ほど吉村知事に（館内を）ご見学いただきましたが、人と防災未来センターは阪神・淡路大震災の後、その経験と教訓を新しい世代に、子ども達にしっかりと伝えていく、県内外の多くの方々に発信するために作られました。地元の渚中学校、西脇高校をはじめ多くの子ども達が震災を経験していない世代ですが、防災・減災をしっかりと考えながら自分たちも取り組んでいこうという流れが、兵庫・神戸で生まれていることをご覧いただけたかと思えます。
- ・来月の22、23日には、ここで「ぼうさいこくたい」が国との連携により開催されますが、2025年は阪神・淡路大震災から30年という年にもなりますので、培ってきた防災・減災、阪神・淡路大震災からの経験と教訓を、万博の機会にも発信していく、創造的復興というコンセプト、災害前よりもよりよい社会を作っていくというコンセプトが兵庫・神戸から出てきたことを後世につなげていく。これがコロナからの創造的復興、よりよい社会を作っていくポストコロナ、ウィズコロナ社会にも通ずるものだということ発信していきたいと思っています。
- ・万博の機会には我々も、兵庫県を丸ごとパビリオンに見立てて、いろんな取組みを発信していくフィールドパビリオンというコンセプトをスタートしまして、個人、団体いろんな方々に参画していただきたいということで、既に多くの方々がいろんな取組み、SDGs、社会課題の解決策を発信しようという取組みをやっていただこうとしています。
- ・先日は隣接の県立美術館で1000日前イベントというものを、大阪がやっている同じタイミングでさせていただきました。そういった形で万博に対する機運醸成にも一緒になって取り組んでいきたいと思っています。
- ・本日は今年の第1回会議で確認されました、産業分野はじめ観光やいろんな分野での連携内容を確認していくということをお願いしたいと思っています。それらを具体的なプロジェクトとして令和5年度に共同で進めていく、そして兵庫と大阪が連携して関西をさらに盛り上げていく、人、モノ、投資そして情報がこの関西に集まってくる、国内外から集まってくるような取組みを共に進めていくことが大事だと思っていますので、どうぞよろしくお願ひします。

3 連携会議の概要説明

<事務局>

- ・資料1に基づき説明

4 各分野における連携事業について

<両府県担当>

- ・資料2に基づき、①産業振興、②観光振興、③国際金融都市、④各分野共通の各項目について説明

5 両知事意見交換

<齋藤兵庫県知事>

- ・産業振興分野で少しすりあわせというか議論したいのが、スタートアップの関係です。どういう分野でどういう方々をターゲットにして兵庫と大阪が戦略的に取り組んでいくのが大事だと思います。今兵庫は、イメージでいいますと、ユニコーン型のスタートアップとは別の側面から、社会課題の解決型のスタートアップ、スモールビジネスといったスタートアップをこれから育成していきたいなという思いが少しあります。
- ・例えば地域における課題、兵庫は都市のみならずいろんな多自然地域もありますので、そういったところで例えば鳥獣被害ですとかイノシシや鹿が学校にきたりすることが多いので、それをどうやって解決していくか。それから雑草が道路の隙間に多いという問題をどう解決していくか。いろんな地域の社会課題を解決していく際にデジタル技術とかいろんな最先端技術を活用することによって、官民連携で解決していく力になるのではないかと、それをスタートアップとしてチャレンジしてもらおう場を提供するという方向性で今やっています。兵庫テックイノベーションプロジェクトということで、そういった社会課題解決型のスタートアップをやっていくという方向で、大阪のこれからのターゲットとの棲み分け、重複する部分もあるかと思いますが、イメージ感などがあれば。

<吉村大阪府知事>

- ・健康医療、それから2025年の大阪・関西万博を考えたときに、たとえば健康アプリや医療アプリといったライフサイエンス分野のスタートアップというのは、これからかなり市場は広いと思っています。その分野のファンドを立ち上げるという取組みもしています。
- ・カーボンニュートラル、グリーン分野も、これから市場としては広がってくると思っている。そういった分野が一つターゲットだと思っています。
- ・スタートアップということになると、プレイヤーが非常に重要だと思います。スタートアップにチャレンジする企業もそうだし、その周りを支えていく金融ファンドの地盤は大阪府を含めて関西は弱い。東京は非常に強いです。アントレプレナーのようないろんな新しいことにチャレンジするという要素は結構あるのですが、それを支えたり後押しする、エンジン役になるようなプレイヤーをいかに兵庫・大阪、関西に作っていくのか。あるいは大企業にその役割を果たしてもらおうのか。ここの取組みが重要だと思っています。ここが少し弱いところでもあると思っています。いろんなところでプロモーションして巻き込んでいくようなことが重要だと思っています。
- ・先ほどもプロモーションが共通項目でありましたが、兵庫と大阪で共同のプロモーションのようなものをしっかり作って、その先がどこかという、た

たとえば首都圏に対して積極的にPRしていく。首都圏のプレイヤーをこちらに来てもらうという取組みも重要。在阪の大企業が、もっと新しいいろんなことにチャレンジするスタートアップを支援する仕組みはあったりするのですが、そこにもっと兵庫・大阪の枠を超えて、どんどん加速してやってもらうという、トータルでエコシステムをどううまく構築していくのが重要。

- ・京阪神で国に対してスタートアップエコシステムの支援のエリアの申請をして、認められ、それぞれ活用していると思うのですが、もっとうまく活用できないのかと思っています。エコシステムをうまく活用する仕組みを作った方がいいのではないかとというのが僕の意見です。
- ・それぞれの分野は、SDGs と重なっている部分もあるし、それぞれのスタートアップにチャレンジしようという企業体は多いと思いますが、それを支える母体みたいなものが弱いのではないかとと思っています。

<齋藤兵庫県知事>

- ・そのあたりのファンを官民連携でどうしていくのか、それとも民でやるのか、それを東京のいわゆる大きなファンをどう誘引していくのか。支える分です。それからサポート、ゼロから1にするビジネスですから、1を育てていくのが不得手な方もいらっしゃるので、それをどのようにサポートしていくのか、まさにエコシステムが大事だと思っています。
- ・医療・ライフサイエンスとかそういったイノベーション型の次世代の産業育成のスタートアップというところと、先ほど申し上げたいろんな社会課題を解決するスタートアップを是非こういったビジネスコンテストとかをやる時にいろんなテーマを絞ったりして、提案してもらったりだとか、それを育成のプログラムにそれぞれカテゴリを作っていくのも大事だと思うので事務局の方でもしっかり議論していただきたいなと思っています。

<吉村大阪府知事>

- ・具体的な施策として「スタートアップ甲子園（仮称）」を2022年に共同開催して、2023年以降も共同開催していこう。
- ・こういった、いわゆるピッチみたいところで、齋藤知事がおっしゃったようなジャンルや、そこにいろんなプレイヤーに来てもらうというのを協力しながら、この枠を大きくすることを考えた方がいいのではないかなと思います。

<齋藤兵庫県知事>

- ・プレイヤーも色々巻き込んでいく形にしたいし、それを支えようとする人たちも巻き込んでいく場に、是非、この甲子園の舞台とかいろんな箱をつくっていくといろんな広がりができると思うので、お願いしたいと思います。

<吉村大阪府知事>

- ・ちなみに「スタートアップ甲子園（仮称）」はなんで甲子園ですか。若いという意味、それとも甲子園球場。

<産業振興担当(兵庫県)>

- ・まず「スタートアップ甲子園（仮称）」は高校生の大会ではないです。高校野球の甲子園をイメージして全国大会をイメージするようなものですが、

実際は中学校とか高校生、大学生、それから一般も含めて大々的にやっこうとするイメージのものです。

<齋藤兵庫知事>

- ・甲子園という名称はどうですかね。

<吉村大阪府知事>

- ・甲子園でいいのでは。大学生とか、結構学校も多いので。大学の起業家もアメリカとか海外に比べると日本はすごく少ない。大学発ベンチャーも結構ありますから、そういったところにも、どんどん「スタートアップ甲子園(仮称)」に参加してもらって、枠を広げていけたらいいのではないかと。

<齋藤兵庫知事>

- ・その視点がすごく大事で、わりと東京の方の大学は積極的に、特に理系はベンチャーをやるんですけど、関西の方はちょっと大人しいイメージがあって、阪大とか神戸大学など優秀な公立大学も多いので、もっとそういった方々にチャレンジしてもらおう場にも是非したいなと感じています。

<吉村大阪府知事>

- ・「スタートアップ甲子園(仮称)」も首都圏に売り込んでいきましょう。共通のプロモーションをつくって。

<齋藤兵庫知事>

- ・次に「空飛ぶクルマ」ですが、今日も報道で(大阪府の補助事業に)8事業が認定されて大阪城公園とか含めていろんな実証実験をされると、その中には神戸空港とかエアバスの事業も入っていたりするので、まさに県域を越えた取組みを府でもやっていただいているので、関西全体にとっても非常にいい動きだなと思っています。
- ・「空飛ぶクルマ」はやはりハードルも高いので、商用運航をめざしていくということですが、兵庫県も先日、尼崎で飛ばしたりだとか、ドローンサミットがあったが、そこでも空飛ぶクルマを含めて盛り上がっているんで、どう戦略的にやっていくかということがすごく大事だなと思っています。
- ・これから具体的に進めていかないとはいけません、私のイメージでいうと兵庫県はドローンが社会実験を含めて色々やっているところがあるので、ドローンを基軸にしながら、ルートも含めて空飛ぶクルマにもつなげていくというような戦略的なやり方もいいのではないかとと思っています。特にドローンは今いろんなモノの映像をとったり、レーシングをやったり個人がユーザーになっていますが、色々見てますと重要なのが輸送ですね。物流の観点でドローンを活用していくということが、日本のメーカーにとっても強みになるような感じがするので、ドローンを使った物流の拠点性というものを兵庫県の中でも作っていきなと思っています。
- ・例えば、淡路とか但馬とか尼崎など阪神間でそれぞれドローンの物資輸送の拠点性たり得るものをどう設定していくのか、そういったことも是非やっていきなと思っています。
- ・その先に空飛ぶクルマが一つの方向性として見えてくるかなといった形で考えています。大阪の今後の戦略的な見通しがあれば。万博に向けたトライアルですね。

<吉村大阪府知事>

- ・「空飛ぶクルマ」については、まず万博までに様々な実証実験や国との調整や要望を含めての下準備を完了させて、万博のときには実際に人を乗せた商用運航を確実に実現させたいと思っています。そのためのロードマップを作って、今何をしなければならないのかというのを逆算しながら進めています。
- ・今回、事業体のコンソーシアムも立ち上げて、よくあるパターンだと、機体メーカーと商社系、それから運航（全日空や日本航空やヘリコプター系）の3社ぐらいが一体になって「空飛ぶクルマ」を実際に万博に向けてやろうとしています。
- ・もっと実務的な話をすると、たとえば「空飛ぶクルマ」の管制をどうするのか。空でいかに安全を確保しながら運航するのかといった実証実験は8事業の一つに入っています。それから、様々なシミュレーションは当然入る。
- ・もう一つ大事なのが、離着陸場についても今から準備して、ある程度整備をしていかなければいけないということで、実証実験を通じながら今進めています。
- ・万博の会場の中に「空飛ぶクルマ」の離着陸場をつくるというのは決定事項になっている。これは博覧会協会とも協議してやっていますが、この場所につくるという場所の指定もしています。それはぜひ実現したいと強い思いを持ってやっている。兵庫・大阪の連携という意味では、ぜひ大阪湾・神戸港のエリアで「空飛ぶクルマ」を飛ばすことは非常に現実的で、お互いにとって有効だと思います。
- ・とりわけ、特に動き出しのところは、住宅の上をどこまで行けるのかはあるが、海上は非常に飛ばしやすい。そういった意味で実験の段階では、内陸部でいくと非常に高い高層ビルの上を離着陸場にできないか。あるいはベイエリアの近くで離着陸場をつくれぬかという実証実験をやっています。そういったところに兵庫にも入っていただいて、たとえば淡路島につくれぬか。この間行ったのですが、淡路島は素晴らしいところで、ポテンシャルが高いと思います。淡路島はやりようによってはものすごく素晴らしいものになると思っています。そこに「空飛ぶクルマ」の離着陸場をつくれぬか。あるいは、都心部なら神戸空港、神戸港の近くに。この辺りは海で繋がっているから非常に汎用性も高いし、離着陸場をつくれれば関空から直接繋がるだろうし、万博会場からも繋がるだろうということで、いろいろ繋がってくると思います。
- ・「空飛ぶクルマ」でいくと、現実的に2025年には必ず商用運航も開始しようとしています。ルートの対象になるような離着陸場をどうするかというところを、特に兵庫県として中心に考えてもらえば繋がってくるのではないかと。

<齋藤兵庫県知事>

- ・ルートの中で離着陸場については、すごく大事だと思ってまして、そんなに莫大なコストがかかるものではないと思います。H（ヘリポート）のマークと電源、ポートみたいなものがあればいいと思うので、その候補地の選定、離着陸場の選定がすごく鍵になってくると思います。
- ・そこは兵庫県としても、淡路、阪神間、それから但馬、但馬空港のところですね。山間地とか中山間地でのドローンなり空飛ぶクルマの運航というの

もいろんな社会課題にとって大事なテーマなので但馬地域とか含めて色々着手しようかなと思っています。どういったところで使えるかとかをしっかりと整理して、官民でどのようにやっていくかを進めつつ、ルートがつけられるようになればつなげていくという感じです。

- それを例えば早めにやりたいのであればドローンで最初にやるとかいろんなやり方があると思うが、具体的に候補地の選定も含めてやっていこうかなと思っています。

<吉村大阪府知事>

- もしやるのであれば、今実際にいろんな実証実験を含めて進めているので、兵庫の担当部局の方とそれで繋がれば、やることはそれほど変わらないので。社会受容の実験はどこでやってもあまり変わらないから、これは大阪でやるとして、ポート（離着陸場）をどこにつくるかというのは兵庫で最も適した場所があるだろうし。特に最初は商用運航なのでビジネス性がないとなかなか始まらないと思いますから、そういった意味で、どこが適地かというのは民間の事業者の意見も聞きながらでないに進まない話だと思います。
- そういったものを具体的にやって、大阪湾から海で繋がっていく。これは、「空飛ぶクルマ」だけではなくて、船、海運・舟運も非常にポテンシャルが高いと思っていますので、そこに繋がったらいいのではないかな。

<齋藤兵庫県知事>

- 海上交通、水上交通はリアルで大事なテーマだと思ってまして、兵庫県もいろんな実証運航、ユニバーサルシティポートから神戸の方に行かせていただいたが、資料2の15ページ。非常に事業者からの関心も高いです。これをどういうふうにビジネスに乗せていくかは、定期航路とかを含めてハードルが高い面もあるんですが、これから万博やインバウンドも含めて関心は高く、いろんな航路が出てくるんじゃないかなと思っています。淡路とかそういったところも含めてしっかり投資をしていこうかなと思っています。
- 西宮には第1回会議で行っていただいたヨットハーバーもありますし、そういったところの設備投資、岸壁をどういうふうにユニバーサル対応にしていくのか、電源の施設をどうするのかとか、スーパーヨットというものもこれから一つ伸びる分野でもありますから、港湾の設備投資はしっかりやっていこうと思います。

<吉村大阪府知事>

- 海の部分と空の部分。空（の部分）は万博があるからその先の成長分野として可能性が高いと思います。海と空の部分で繋げていけば、より人の交流や経済の交流も増えてくると思います。
- 大事なのは、今日の前のことで何をするかということ。プロモーションが今すぐできることだと思います。「空飛ぶクルマ」は万博が始まるまでに下準備は当然しないといけません。今すぐやる話、明日から飛ぶわけではなくて、今からできるといえば、共同でプロモーションを、特に観光分野でやっていくことが重要だと思います。
- 大阪いらっしやいキャンペーンはこの間再開しましたが、県民割は早晚全国割になると思います。だから、それを見越して兵庫・大阪のプロモーションをそれぞれやっているところはやるのは当然ですが、それを掛け合わせたようなものをたとえば首都圏でやればいいと思います。兵庫はどんなとこ

- ろ、大阪はどんなところというのは関西では大体みんなわかっています。
- ・今の状況から早晚全国割になるのは目に見えているので、新たな需要を開拓するという意味で、首都圏に兵庫・大阪の共同プロモーションをどんどんやっていく。全国割になるときに、共同のプロモーションを首都圏でやって、首都圏の需要を取り込むのが一つ。
 - ・もう一つはインバウンド。今、ものすごく円安で需要はすごく高い。関西圏は海外から人気もある。政府も海外からの入国者を徐々に増やしている。これは国際的な動きとして、中国はしばらくないと思いますが、アメリカやヨーロッパなど世界を見ても国同士の行き来は普通に戻っています。インバウンドの需要はこれから出てくるので、海外向けのプロモーションもそれぞれ独自にやっているのは当然ですが、共通にそれぞれがやるときに兵庫・大阪で一緒にうまく海外のお客さんを関西圏に呼び込むことができればよいのではないかと思います。

<齋藤兵庫県知事>

- ・是非やりたいなと思っています。まずは首都圏の国内向けのトッププロモーション、(全国旅行支援が) 10月くらいから早ければ始まるかもしれないので、それ以降も見据えてやるということですね。
- ・それからインバウンドはすごく大事で、兵庫県はコロナ前は少し乗り遅れていて、京都、大阪と比べると少なかった。これからいろんなポテンシャルがあると思うので、特にそれぞれの持ち味をしっかりと整理して取り組みたい。
- ・例えば、昨日ワーケーション知事室で丹波に行ってきたが、古民家の1棟貸しというのがキーワードでそこにハイクラスの外国人が1週間ぐらい泊まって、1泊8万円とか普通に払っていくような流れがある。そういった古民家とか田園地帯とかそこに食とか兵庫ならではのポテンシャルと泊まる場所の持ち味をしっかりとやっていくことと、大阪の都市の魅力をうまく組み合わせる兵庫・大阪に長期滞在してもらおうところの戦略をこれから練っていく必要があります。
- ・そこにサイクルツーリズムとか、エコなSDGsなツーリズムじゃないと最近海外の人には刺さらないという話もあります。飛行機で来る時点でCO2を出しているから着地したところでは、できるだけCO2を排出しないような旅というのがトレンドになっていて、電車とか自転車とかCO2オフセットなモビリティを使うというのが主流になってきているので、その辺りを組み合わせる売り出していくというのがインバウンド向けには特に重要なと思います。

<吉村大阪府知事>

- ・兵庫は、インバウンドのプロモーションとか、兵庫のプロモーションというのはひょうご観光本部でやっているのですか。我々は大阪観光局というのを大阪府・市でつくってやっています。ひょうご観光本部は兵庫県の中の組織ですか。

<観光振興担当(兵庫県)>

- ・ひょうご観光本部という公益社団法人として、県の外郭団体でございます。インバウンドのプロモーションについてもここが担っております。

<吉村大阪府知事>

- ・そこ（ひょうご観光本部）と大阪観光局とで、うまく連携してインバウンド向けのプロモーションができないのか。

<齋藤兵庫県知事>

- ・海外プロモーションも共通認識をすりあわせて、どういう風にできるかというのには是非考えてもいいかなと思っています。

<吉村大阪府知事>

- ・県民割の全国版は間違いなく入ってくるので、その準備を今からやって首都圏に売り込みにいく。実務的には素材を作り、向こう（首都圏）の媒体に載せたりとか。

<観光振興担当(兵庫県)>

- ・資料2の14ページに出ているところですが、首都圏の主要駅でデジタルサイネージとか SNS 広告を共同出展させていただくと。鉄道広告なんかもうっていきたい。これを目玉にさせていただいたらと思う。

<齋藤兵庫県知事>

- ・ちょうどデスティネーションキャンペーンが今年、来年とあるので、そういった枠組みもありながら、首都圏に売り込んでいくかというのはちょうどできるかもしれないですね。

<吉村大阪府知事>

- ・どこに売り込んだら刺さるかというのは、それこそひょうご観光本部や大阪観光局のノウハウだとか、実務的なところは任せるとして、そこに齋藤さんと吉村さんが来てと言われれば行きますので。でもトータルとして実務的にどこに打ったら（売り込めば）刺さるかという戦略ではないか。

<齋藤兵庫県知事>

- ・そこは大事だと思っている。それがあってそれぞれの強み、それぞれの持ち味、ターゲットに狙っていく。兵庫県でいうと神戸なのか多自然地域なのかはわからないですが、そこを大阪と役割分担というか持ち味の棲み分けができると思う。そうすれば広域観光ができる。こういったものがありますとか整理してしっかり売り込んでいくことをやるのが大事。是非県民割の全国拡大に向けて早急にやるということで。
- ・あと、トッププロモーションで海外に、コロナが大分落ち着いてきたらやっぱり投資、スタートアップもそうですが投資を国外から。この会議をやるときの最初の趣旨として、国内はなかなかゼロサムになっていく世界なので海外にしっかり売り込んでいくことの重要性というのもあったと思うので、そこはしっかりこれからコロナがあけてやっていかないといけないかなと思っています。
- ・特に共通するターゲットである国とか何を売り込みたいかを絞って、国のターゲットがあると思うんですけど、もし重なっているところがあれば、共同プロモーションとかそういったところは是非やっていきたいと思います。その辺り何かあれば。

<吉村大阪府知事>

- ・海外への売り込みという意味では、入り込みやすいのは観光が一番。それからビジネスの投資。国際金融都市となるとハードルは上がっていきます。一番入口として入りやすいのは観光、観光客は必ず来るので。せっかくだからこちらに来てもらうというような趣旨ですか。

<齋藤兵庫県知事>

- ・ビジネスのところですか。

<吉村大阪府知事>

- ・ビジネスのところになってくれば、それぞれの強みを掛け合わせて、それぞれの海外の投資先にアプローチしていかないといけない。

<齋藤兵庫県知事>

- ・それぞれの売りたいモノがあるじゃないですか。キャッシュを取り込んでいくということなので。兵庫も例えば神戸ビーフとかそういった県産品、府産品をどう売り込んでいくかという時のターゲット戦略というか、輸出ですね。そこがシンクロする部分があれば一緒にやっていくというのもありかなど。

<吉村大阪府知事>

- ・強みのあるものの輸出、香港や上海、東南アジアに、いろんな日本のすばらしい、価値の高い、あるいは美味しいものをいかに鮮度高く関空から運ぶのかは今やっているところ。

<齋藤兵庫県知事>

- ・神戸ビーフと（大阪の）ワインをセットで売り込むとか。

<山口大阪府副知事>

- ・まずは、農産物、食であれば、観光と一緒に売り込んでいくことになると思う。兵庫の素材の良さや大阪の美味しい料理を一体的にやる。
- ・ただ、ビジネスになると、大阪には「大阪産（もん）」がありますが、今のところどちらかというと、投資を呼び込むというスタンスになっているので、その中でどういうふうに兵庫の産業と重ね合わせてやっていくのかを考えていくことが重要である。
- ・両知事もおっしゃっていますが、一番は観光でしっかりインバウンド回復させるためにも両府県の魅力を売り込んで、それにプラス美味しいものは海外にも消費してほしいという展開をしていくのが大事ではないかと思う。

<吉村大阪府知事>

- ・先ほど齋藤知事からこれからの海外との向き合い方、これは国内でもそうだと思いますが、いろんな環境といったところのSDGs的な発想、視点が非常に重要だというのはそのとおりだと思います。
- ・今大阪でやろうとしているカーボンフットプリント、CO2の排出量の見える化をできるだけやって、それ（CO2の排出）に配慮した商品やサービスをぜひ府民や県民が選択しやすくするようなポイント制みたいなもの考えている。

- ・たとえば、兵庫のスーパーに行って買い物するとき、輸送するとき CO2 が出ますので、海外から入れたものは (CO2 が) 余計に出る。でも、それは買う人にはわからないわけです。この商品とこの商品は同じ分野だけれども、CO2 はこちらの方の排出量が少ないとなると、もちろん値段だけで決める人はいますが、中には自分がグリーンに貢献できるなら貢献しようと消費者の選択肢にもなりつつあると思います。脱炭素に自分が協力できるのであればしていこうと。
- ・なので、そういったポイント制度を創設しようと思っていますので、情報提供をさせていただきます。もし、これもいいのではないかなれば、たとえば共通のポイントにして兵庫・大阪の範囲で使えるようになると。兵庫と大阪を行き来している人はたくさんいるわけなので、買い手とすれば兵庫と大阪が共同で取組みをしてカーボンフットプリント、見える化をして、そして CO2 排出量を減らすのに貢献している食べ物や商品を選ぶようにしましょう、それについてポイントもついてきてお得です、グリーンにも貢献しますという行動変容に繋がるような取組みが一緒にできればおもしろいのではないかな。

<齋藤兵庫県知事>

- ・地産地消というのは、その地でできた食べ物を地元で食べましょうというだけではなくて、実は CO2 の削減にも繋がっているというのは、これから大事な視点だと思っているので情報共有しながらお願いします。

<吉村大阪府知事>

- ・国際金融都市の実現には長い期間が必要になりますが、担当部から説明がありましたとおり、神戸は海外の人にとっても住みやすい、非常に高いレベルの居住環境である。そういったところで国際金融都市を大阪は一生懸命めざそうとしているので共同でできればと思います。

<齋藤兵庫県知事>

- ・神戸で言うと六甲アイランドとか、医療もあって住みやすい。スポーツ選手も結構住んでいます、そういった住まいや医療の提供で一緒になってやれるというのは絶対そうだと思いますので、私が大阪にいたときからそこが兵庫と大阪が国際金融都市で組める大きな要素だと思っています。しっかりやっていきたいと思っています。

<吉村大阪府知事>

- ・健康医療の分野は、神戸の医療産業拠点都市と大阪にもいろいろ拠点があるので、もっと連携しようではないかということですが、管轄は神戸市なので、うまく巻き込んでもらえればと思いますのでよろしくお願いします。

<齋藤兵庫県知事>

- ・神戸医療産業都市は震災後からいろんな歴史がありまして、いろんなノウハウがありますのでしっかり連携していきたいなと思っています。医療産業ロボットで「hinotori (ヒノトリ)」という川崎重工などが共同開発したものであるが、海外だと「ダビンチ」が主流ですが、これを国産でやっていこうという取組みを、まさにスタートしたところなのでそういった分野も含めてしっかりこれからやっていきたいなと思っています。

<事務局>

- 色々なご指摘をいただきました。スタートアップにつきましても本人だけでなく、それを支える方、多様なプレイヤーを巻き込んだエコシステムを作り出す取組み、具体的には「スタートアップ甲子園（仮称）」などにもそういった要素を盛りこんでいくということ。
- それから空飛ぶクルマに関しましては共同での候補地の調査、選定を行っていくこと。
- 観光につきましても全国旅行支援に合わせて両府県で共同プロモーションを行う。またインバウンド向けの観光プロモーションについても観光だけではなく、食、県産品・府産品も含めた海外への売り込みを検討していく。
- 脱炭素化の取組みで県民、府民の行動変容を促していくような取組みも共同でできないかということで、新たな連携項目に追加すべきかどうかということも検討させていただきます。
- いずれにしても、今年度できるものはすぐに着手しますし、来年度以降実施すべきものは、両府県で予算編成も必要になってきますので足並みを揃えて対応してまいりたいと思います。

6 閉 会